



Photostud

THE TOKYO SHIMBUN HAI

第74回 東京新聞杯 (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着  
 本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円  
 付加賞 567,000円 162,000円 81,000円



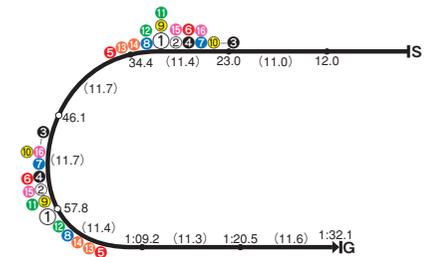
レース映像は  
 コチラでご覧  
 いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
 負担重量 57<sup>+</sup>、牝馬 2<sup>+</sup>減、2023.2.4以降GⅡ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬 3<sup>+</sup>増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬 2<sup>+</sup>増、牝馬限定GⅡ競走またはGⅢ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬 1<sup>+</sup>増、2023.2.3以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬 2<sup>+</sup>増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬 1<sup>+</sup>増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.2.4 東京 曇・良 芝1600m (国際) (特種)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り 通過順位 (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	サクラトゥジュール	牡 7	57	R.キング	1:32.1	6-6	33.5	526(±0)	33.8(7)	堀 宣行(美浦)	112
2	⑤	ウインカーネリアン	牡 7	58	三浦皇成	1	1-1	34.5	518(-)	8.4(0)	鹿戸雄一(美浦)	112
3	⑧	ホウオウビスケッツ	牡 4	57	岩田康誠	クビ	4-4	33.9	510(+6)	35.3(0)	奥村 武(美浦)	109
4	②	アスクコンナモンダ	牡 5	57	横山武史	ハナ	9-9	33.2	460(+4)	73.2(0)	中内祐正(栗東)	109
5	⑪	マテンロウスカイ	騾 5	57	横山典弘	¾	6-7	33.7	484(+4)	22.9(0)	松永幹夫(栗東)	
6	⑥	マストディーヴァ	牝 4	56	岩田望来	クビ	11-11	33.2	454(+10)	1.9(1)	辻野泰之(栗東)	
7	⑩	アヴェラール	牝 6	56	R.ソグスト	¾	13-14	33.1	452(+4)	20.9(0)	木村哲也(美浦)	
8	④	ルージュリナージュ	牡 5	55	横山和生	½	11-11	33.4	448(+6)	89.9(0)	宗像義忠(美浦)	
9	⑨	ウンブライル	牝 4	55	C.ルメル	アタマ	6-7	34.0	486(+22)	6.4(0)	木村哲也(美浦)	
10	③	トゥードシフォン	牡 5	57	藤岡佑介	クビ	2-2	34.8	490(+2)	41.0(0)	四位洋文(栗東)	
11	⑫	フリームファシ	牡 4	58	菅原明良	クビ	9-9	33.8	510(-2)	91.6(0)	須貝尚介(栗東)	
12	⑦	ジャスティンカフェ	牡 6	58	坂井瑞星	2½	13-13	33.8	508(+2)	4.7(0)	安田翔伍(栗東)	
13	⑬	ドルチェモア	牡 4	57	石橋 脩	1½	16-16	33.6	478(+4)	190.5(0)	上原佑紀(美浦)	
14	⑭	サウンドビバーチェ	牝 5	56	浜中 俊	3	3-3	35.8	506(+4)	87.6(0)	高柳大輔(栗東)	
15	⑮	ダノンタッチダウン	牡 4	57	北村友一	4	15-14	35.1	544(-2)	145.8(0)	安田隆行(栗東)	
16	⑯	コナコースト	牝 4	55	戸崎圭太	2½	4-5	36.5	468(+10)	37.0(0)	清水久詞(栗東)	

単勝①3,380円(7<sup>+</sup>%) 複勝①630円(7<sup>+</sup>%) ⑤300円(4<sup>+</sup>%) ⑧870円(10<sup>+</sup>%) 格連①-③1,720円(7<sup>+</sup>%)  
 馬連①-⑤11,400円(30<sup>+</sup>%) ワイド①-⑤2,550円(25<sup>+</sup>%) ①-⑦2,290円(55<sup>+</sup>%) ⑤-⑧3,800円(34<sup>+</sup>%)  
 馬単①-⑤36,140円(75<sup>+</sup>%) 3連複①-⑤60,250円(143<sup>+</sup>%) 3連単①-⑤804,680円(983<sup>+</sup>%)  
 5重勝⑤⑥⑧⑨⑩437,070円(1,144票) 対象競走：京都10R/東京10R/小倉11R/京都11R/東京11R



通過タイム：600m 800m 1000m  
 34.4 - 46.1 - 57.8 上り：800m 600m  
 46.0 - 34.3

アラカルト

- ・R.キング騎手は東京新聞杯初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算2勝目
- ・堀宣行調教師は東京新聞杯初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算71勝目
- ・ネオユニヴァース産駒はJRA重賞通算33勝目
- ・7歳馬の勝利は00年ダイワカーリアン以来24年ぶり、通算4回目
- ・非抽選馬 5頭(カルリーノ、カルロヴェローチェ、セッタレラスト、ラヴェル、リュウベック)

# サクラトウジュール *Sakura Toujours*

牡 青鹿毛 2017.4.14生  
北海道新ひだか町 谷岡牧場生産  
馬主・榊ざくらコマース 美浦・堀宣行厩舎  
馬名意味・冠名+いつも(仏)。母母名より連想

スワンズウツドグローヴGB系 F16-a

ネオユニヴァース 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	ポインテッドパスGB 栗毛 1984	Kris Silken Way
サクラレーヌ 黒鹿毛 2006	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	セダンフォーエバー 鹿毛 1987	マルゼンスキー サクラセダン

5代までのインブリード：Hail to Reason S4×M5

## INTERVIEW

谷岡康成 社長(谷岡牧場)

### 能力はある馬なので期待していました

昨年勝ったメイSと条件が似ていましたし、元々能力はある馬なので期待していました。牧場時代の印象は特に残っていないのですが、それはこの馬にはトラブルがなく、体も丈夫で順調に育ったということです。今回はパドックで落ち着いていたこと、キング騎手がこの馬に合った騎乗をしてくれたことが勝利につながったのだと思います。堀調教師にも感謝しています。

M.Takahashi



5歳時の夏に3勝クラスを卒業した後、オープン特別では1勝2着2回と好走を重ねる半面、過去4回の重賞挑戦では6着が最高着順と精彩を欠いてきた本馬。前走の中山金杯も折り合いに苦しんで12着に沈んだが、その経歴を踏まえ、「リズムを重視して連んだ」(キング騎手)この日は大変身、立春の当日に「遅咲きの桜」を咲かせ、重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

## 父ネオユニヴァース

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央13戦7勝(日本ダービー<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、大阪杯<sup>G2</sup>、スプリングS<sup>G2</sup>)、最優秀3歳牡馬、05年から供用、21年死亡  
〔代表産駒〕**ヴィクトワールピサ**(ドバイワールドC・首<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>)、**ロジユニヴァース**(日本ダービー<sup>Jn I</sup>、弥生賞<sup>Jn II</sup>)、**アンライバルド**(皐月賞<sup>Jn I</sup>、スプリングS<sup>Jn II</sup>)、**ネオリアリズム**(クイーンエリザベスII世C・香<sup>G1</sup>、中山記念<sup>G2</sup>、札幌記念<sup>G2</sup>)、**デスベラード**(京都記念<sup>G2</sup>、ステイヤーズS<sup>G2</sup>2回)、**イタリアンレッド**(府中牝馬S<sup>G2</sup>、七夕賞<sup>G2</sup>、小倉記念<sup>G2</sup>)、**グレンツェント**(東海S<sup>G2</sup>、レパードS<sup>G2</sup>)、**アムールボエジー**(関東オークス<sup>Jn II</sup>)、**ウェスターランド**(アンタレスS<sup>G2</sup>、チャンピオンズC<sup>G1</sup>2着)、**フォーエバーモア**(クイーンC<sup>G2</sup>、阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup>3着)、**ゴールスキー**(根岸S<sup>G2</sup>、マイルチャンピオンシップ<sup>G1</sup>3着)、他に重賞勝ち馬多数

## 母サクラレーヌ

北海道新ひだか町 谷岡牧場生産 中央8戦0勝  
サクラフルーレ(11 牝父マンハッタンカフェ)不出走(13 牝父ステイゴールド)  
サクラエテルノ(14 騾父エンパイアメーカーUSA)中央4戦0勝、地方110戦6勝  
サクラユニヴァース(15 牝父ネオユニヴァース)中央16戦2勝(遊楽部特別)  
**サクラトウジュール** 本馬(17 牝父ネオユニヴァース)中央24戦6勝(東京新聞杯<sup>G2</sup>、メイS<sup>G2</sup>、2022ワールドオールスタージョッキーズ第2戦、ニューイヤース・L2着、ディセンバーS・L2着、ジュニアC・L3着)獲得総賞金165,928,000円  
サクラロウ(18 牝父ダイワメジャー)中央8戦1勝、地方4戦0勝  
サクラソーレ(19 騾父リオンディーズ)中央10戦0勝、地方7戦1勝(22 牝父サートゥルナーリア)  
※12、16、20、21、23(不受胎)

## 祖母セダンフォーエバー

北海道静内町 谷岡牧場生産 不出走、10年死亡。**サクラプレジデント**(中山記念<sup>G2</sup>、札幌記念<sup>G2</sup>、札幌2歳S<sup>G2</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>2着、朝日杯フューチュリティS<sup>G1</sup>2着、神戸新聞杯<sup>G2</sup>2着、スプリングS<sup>G2</sup>2着、種牡馬)、**サクラナミキオー**(エイプリルS<sup>G2</sup>、白秋S、メイS、オールカマー<sup>G2</sup>2着、七夕賞<sup>G2</sup>3着)、**サクララディート**(福島テレビオープン<sup>G2</sup>、アメリカジョッキークラブC<sup>G2</sup>2着)の母、**サクラヴィクトリア**(関東オークス<sup>G2</sup>、秋華賞<sup>G1</sup>2着、ローズS<sup>G2</sup>2着)の祖母、**ラッキードリーム**(JBC2歳優駿<sup>Jn III</sup>)の曾祖母

## 遅咲きの桜を咲かせ重賞初制覇

今年立春の当日に行われた東京新聞杯には、行く手に春の大舞台を睨む好メンバーが集結。昨秋のローズSを衝撃的なJRAレコード(1分43秒0)で快勝、続く秋華賞でもリバティアイランドの2着に追い込んだマスクトデビューアが圧倒的な支持を集め、マイルチャンピオンシップの3着馬、ジャスティンカフエ、NHKマイルC2着のウンブライルがこれに続いた。とはいえ、中心勢力と目された面々の前に立ち届かなかったのは7番人気の伏兵サクラトウジュール。重賞未勝利の7歳馬が鋭い決め手を牙え渡らせ、初の勲章を手にした。

レース史上初の連覇に挑むウインカ

自分の競馬に徹したウインカーネリアンの逃げ脚は直線に向いてからも衰えず、好位で積極的に追いかけた組が先に失速。かわってサクラトウジュールと、離れた4番手で脚を溜めていたホウオウビスケッツが前に詰め寄る。坂下で最内にあいたスペースを突き、加速にかかったサクラトウジュールはとりわけ鋭い末脚を發揮。史上初の快挙まであと一歩と迫ったウインカーネリアンを抜き去り、最後は1馬身差をつけてゴールを駆け抜けた。

5歳時の夏に3勝クラスを卒業した後、オープン特別では1勝2着2回と好走を重ねる半面、過去4回の重賞挑戦では6着が最高着順と精彩を欠いてきた本馬。前走の中山金杯も折り合いに苦しんで12着に沈んだが、その経歴を踏まえ、「リズムを重視して連んだ」(キング騎手)この日は大変身、立春の当日に「遅咲きの桜」を咲かせ、重賞ウイナーの仲間入りを果たした。